

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/5)

学部・学科	臨床心理学部・教育福祉心理学科	職名	教授	氏名	佐藤 安子
学歴	昭和57年 3月 九州大学文学部哲学科心理学専攻課程 卒業 昭和59年 4月 筑波大学大学院修士課程教育研究科障害児教育専攻視覚障害主専修 修了 平成16年 3月 武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科 (博士後期課程) 臨床発達心理学専攻中退				
学位	昭和59年 4月 教育学修士 (筑波大学) 平成20年 3月 臨床教育学博士 (武庫川女子大学 乙第34号)				
専門分野	臨床心理学、健康心理学				
専門資格	臨床心理士 (1290号) 自律訓練法指導士 自律訓練法指専門指導士				
所属学会	昭和62年 日本自律訓練学会 昭和63年 日本心理臨床学会 平成元年 日本心理学会 平成 5年 日本カウンセリング学会 平成11年 5月 日本健康心理学会 平成17年 7月 日本教育心理学会				
受賞					
担当授業科目	学 部 心理統計学、臨床心理学総合演習 ・ 、臨床心理学実践演習 (自律訓練法) 、心理学研究測定法、認知科学と臨床心理学、心理学実験 、卒業論文				
論文指導	論文指導担当 [主査] (卒論 : 10名) 論文審査担当 [副査] (卒論 : 11名)				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名 臨床心理学総合演習	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 10名	授業の概要：春学期は受講者が自分のテーマに沿った複数の論文をまとめこれを発表し、他のすべてのゼミ生にコメントを求めた。秋学期は、進んでいるところまでの卒論を発表し、これも他のすべてのゼミ生にコメントを求めた。 教育活動の振り返り： 研究着手から結果の導き方までを一連の流れとして身につけることを目標とした。全員を討論参加に導くために導入した。ここではグループ討議を毎回行うことによって、誰の発表であっても「コミットに導く力」とともに「コミットする力」を育成できるようにゼミ運営を行った。 教育活動の成果： 論理構成力が向上した。またプレゼンテーション力も向上した。 今後の課題： 今回の対象者は3回生から前述と同様の訓練を受けている。いつの時点から、またどのような雰囲気集団ならば、上記のような指導のしくみを導入できるのが課題である。
	科目名 心理統計学	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 約130名	授業の概要：臨床心理学の研究に際して必要と思われる基礎的な考え方を学ぶことを目的としている。

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/5)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">FD 活動・教育実績 つぎ</p>	<p>教育活動の振り返り： 毎回の授業は、前回の復習、本日の課題、振り返り（毎回の授業終了時に「振り返りシート」と名付けたコメントシートに、講義で取り上げた内容についての、自己評価、質問、感想の記入を求めている）で構成される。この内容を次回の授業に反映させる方式をとっている。</p> <p>2 教育活動の成果： 数量的な考え方に慣れ、秋学期に開講する「心理学研究測定法」への円滑な移行を助けた。</p> <p>今後の課題： 数量的な考え方になじみが薄いため自信が低下している受講者が自信を取り戻すような方法を考えていく必要がある。</p> <p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 2015年3月に学内で実施されたFD研修会（「授業と評価をつなぐ為に ルーブリック評価入門～」）に参加。</p> <p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文執筆にあたり、個々の学生の進路に応じた個別相談を行った。年度初めに論文テーマ作成にあたり、個々の学生が1年間のエネルギー配分を決めるサポートを、正規授業時間外で行った。 ・自律訓練法に関心を持つ大学院生について、研修会に同行させたり、個別指導をした。
<p>H26 年度 研究課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ストレス刺激の自己統制過程に関する心理学的研究 2. 自律訓練法の奏効機序と適用方法に関する研究 3. 対人援助職者のストレスマネジメント
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成二十六年(2014)年度の研究活動の概要</p>	<p>1. に関しては、昨年度までに行ったストレス刺激を自己統制して、心理的安定を保つための機序について調査研究による検討結果を基に、「援助者への援助」の観点から、科学研究費助成事業・学術研究助成基金助成金による代表者 後述：(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)として、個人結果フィードバックシステム(プログラミング)を研究協力者に依頼し、規模の大きな調査研究の基礎作りをした。平成25年度のこの研修成果をもとにし、平成27年度から職種を看護職と一般企業に絞って調査するため、その調査先と折衝してきた。これをもとに、20名程度の小グループで、実際の事例をもとに、事例のもつ資源を発見する方法と、それをもとにして「もっとうまく事例に介入できる方法」を実践した。</p> <p>2. に関しては、平成25年度から検討している自律訓練法とセルフモニタリングの併用の効果を引き続き検討した(今後継続)。本年度はこれに研究課題1で用いた心理指標を加えてパイロットスタディを行った。</p> <p>3. に関しては、研究課題1で用いた心理指標によるストレス対処プロファイリングを応用した研修を、教員免許状更新講習、産業領域に於ける心理臨床家養成プログラムの1科目である「ストレスマネジメント」で行った。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">平成二十六年(2014)年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>1. 「自律訓練法指導者におけるAT実施の現状と課題」、共著、平成26年10月、日本自律訓練学会自律訓練研究第37巻(本人担当部分抽出不可)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動)</p> <p>平成26年度 研究課題1. にあげた平成27年度からの調査のため、次の2か所の職域において折衝と倫理審査を受けている。</p> <p>国立病院機構三重中央医療センター(対象者は410名)</p> <p>なお、 の倫理審査を受ける条件として、京都文教大学の倫理審査を受けることが条件であった。こちらは採択されている。</p> <p>北陸地方の一般企業(対象者は100名)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/5)

<p>平成二十六年(2014)年度の主な研究成果等</p>	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成17年- (株)竹井機器の委託による心理尺度の開発</p>
	<p>(学内活動) 共通教育委員会委員、産業メンタルヘルス研究所研究員</p>
<p>平成二十六年(2014)年度の社会における活動</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の囑託) 平成26年 8月 平成26年度夏期教員免許更新講習講師(共同)「教師と子どものためのメンタルケア」、於：京都文教大学 平成26年11月 平成26年度秋期教員免許更新講習講師、「指導困難な事例への「処方箋」の作成」、於：京都文教大学</p> <p>(自治体や企業における研修等の講師) 平成26年 7月 日本自律訓練学会教育研修委員会主催「大学院生を対象とした自律訓練法講座」の開催責任者および研修講師、於：ホテルアウィーナ大阪 平成26年10月 日本自律訓練学会主催「自律訓練法基礎講習会」研修講師、於：九州大学</p> <p>(その他) ・ 大阪女学院大学非常勤講師(「社会調査法」)「平18.4より」 ・ 京都光華女子大学大学院非常勤講師(「認知行動療法特論」)「平18.8より」 ・ 日本自律訓練学会評議員(教育研修委員会副委員長)「委員は平18.10より」</p>
<p>平成二十一年(2009)～二十五年(2013)年度の主な研究成果等</p>	<p>(著書) 1. 「ストレス反応の自己統制機序に関する心理学的研究」、単著、平成23年12月、風間書房、全185p 2. 自律訓練法テキスト(分担執筆『自律訓練法に関する質問と回答集』)、共著、平成24年10月、コロニー印刷、共同執筆者：久保千春・松原秀樹・松原慎・江花昭一・伊東明子・川原律子・北守茂・五艘香・日高三喜夫、150p 3. 「第1章 発達の観点からみたストレス研究の基礎と臨床」、共著、東京大学出版会、当該章共著者：河合優年、叢書 実証にもとづく臨床心理学『臨床ストレス心理学』(pp.25-40)</p> <p>(論文) 1. 「『教師と子どものためのメンタルケア』講習の実際」、共著、平成22年2月、京都文教大学産業メンタルヘルス研究所レポート第2号(pp.66-69) 2. 「状態不安を予測しうるストレスモデレーター要因の検討」、単著、平成23年3月、京都文教大学臨床心理学部研究報告第3集(pp.69-78) 3. 「対人比較が生じる仕組みの検討」、共同、京都文教大学心理社会支援研究創刊号(pp.41-53) 4. 「事例からみたストレス反応の自己統制機序 メンタルヘルス不全からどのように回復していくのか」、単著、平成24年3月、京都文教大学臨床心理学部研究報告第4集(pp.29-42) 5. 「『教師と子どものためのメンタルケア』研修の実際 教員免許状更新講習の取組から」、共著、平成24年3月、京都文教大学心理社会的支援研究第2集(pp.103-109) 6. 「対人援助職者におけるストレス認知とレジリエンス 対人援助職者と大学生の比較」、共著、平成26年3月、京都文教大学臨床心理学部研究報告第6集(pp.3-11) 7. 「販売職をエンカレッジする接客販売コンディション尺度の作成」、共著、平成26年3月、京都文教大学心理社会的支援研究第4集(pp.51-66) 8. 「モニター度とボランティア度とストレスとレジリエンスに及ぼす影響」、共著、平成26年3月、武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科臨床教育学研究第20集(pp.1-14)</p> <p>(学会報告、学会活動) 1. 紹介演題「セルフコントロールに向けて」、共同、平成21年6月、第32回日本自律訓練学会大会企画ワークショップ副座長、日本歯科大学 2. 「大学生のストレス認知とその対処」、単独、平成22年8月、日本教育心理学会第52回総会、早稲田大学</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/5)

(学会報告、学会活動 つづき)

3. 学会司会者：「ストレス」、共同、平成22年8月、日本教育心理学会第52回総会、早稲田大学
4. 「対人援助職におけるストレス認知とレジリエンス 対人援助職と大学生の比較」、単独、平成22年9月、日本心理学会第74回大会、大阪大学
5. 「対人援助職者と大学生におけるモニター型とボランティア型のストレス対処の違い」、単独、平成23年7月、日本教育心理学会第53回総会、北翔大学
6. 「モニター度とボランティア度がレジリエンス状態とストレスに及ぼす影響」、共同、平成23年9月、日本心理学会第75回大会、日本大学
7. 「MBSSを用いたストレス認知の型とレジリエンス」、共同、平成24年9月、日本心理学会第76回大会、専修大学(神奈川)
8. 「自律訓練法の心理的効果」、単独、平成24年9月、日本自律訓練学会第35回大会、日本大学文理学部(東京)
9. 「対人援助職者に対するストレスマネジメント技法」、単独、平成25年8月、日本教育心理学会第55回総会、法政大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

学術講演・講師：

1. 「自律訓練法」、単独、平成21年6月、第37回日本バイオフィードバック学会ワークショップ講師、大阪工業大学
2. 自律訓練法実習、単独(講師)平成23年2月、大阪大学
3. 「教育領域に於ける自律訓練法」、単独、平成23年9月、日本自律訓練学会34回大会、国立国際医療研究センター国府台病院心療内科
4. 「認知行動療法」、単独(講師)、平成24年2月、平成23年度産業領域に於ける心理臨床家養成プログラム
5. 日本自律訓練学会主催「基礎講習会」講師、共同、平成24年9月、日本自律訓練学会第35回大会、日本大学文理学部(東京)

(調査活動)

- | | |
|--------------|--|
| 平成21年 6月 | 大学生におけるストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(大阪府) |
| 平成21年 7月 | 大学生におけるストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(京都府) |
| 平成21年 9月 | 対人援助職におけるストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(滋賀県看護協会) |
| 平成21年12月 | 大学生におけるストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(京都府) |
| 平成22年 7月 | 大学生におけるストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(京都府、兵庫県) |
| 平成22年 9月-10月 | 新入社員の職場適応の経過についての聴き取り調査(京都府、滋賀県、大阪府) |
| 平成22年12月 | 大学生におけるストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(京都府) |
| 平成23年 4月・6月 | 自律訓練法前後に於ける大学生のストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(京都府) |
| 平成23年10月・12月 | 自律訓練法前後に於ける大学生のストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(京都府) |
| 平成24年 1月 | 大学生におけるストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(京都府) |
| 平成24年 3月 | 対人援助職者におけるストレスの自己統制機序に関する質問紙調査(京都府) |
| 平成25年10月 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい調査フィールドである国立病院機構三重中央医療センターと新調査の手順を打ち合わせした(以後継続中)。このフィールドは400名を越える看護職が対象となるため、調査方法や日程の細かな打ち合わせが必要である。 2. 日本自律訓練学会教育研修委員会副委員長として、有資格者71名を対象として「自律訓練法がどのように指導されているか」の質的調査を行い結果の報告書を作成して次年度の研修計画を提案した。結果報告書は2014年4月に「自律訓練研究」に掲載された。 |

平成二十一〜二十五(2009〜2013)年度の主な研究成果等

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/5)

<p>平成二十一～二十五(2009～2013)年度の主な研究成果等</p>	<p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成17年 (株)竹井機器の委託による心理尺度の開発「現在に至る」</p> <p>平成22年 7月 独立行政法人国立病院機構三重中央医療センターとの共同研究助成金(研究題目:「看護学生の心理的特性と臨地実習に対するストレス耐性の検討」)</p> <p>平成23年度-平成25年度 科学研究費助成事業・学術研究助成基金助成金(基盤研究C・一般)「対人援助職者の心理的特性の解明とそれに適合するストレスマネジメント技法の開発」(課題番号60388112)研究代表者 平成26年 3月 本研究に関わったメンバーを集めて報告会を実施</p>
	<p>(学内活動)</p> <p>平成21年 4月 自己点検・評価 教育研究専門委員会委員「平24.3まで」 教務委員会委員「平24.3まで」 学生相談室運営委員会委員「平25.3まで」 産業メンタルヘルス研究所運営会議委員「平25.3まで」</p> <p>平成24年 4月 共通教育委員会委員「現在に至る」</p>
<p>平成二十一～二十五(2009～2013)年度の社会における活動</p>	<p>(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)</p> <p>平成21年 8月 平成21年度教員免許状更新講習「教師と子どものためのメンタルケア」、於：京都文教大学</p> <p>平成22年 8月 平成22年度教員免許状更新講習「教師と子どものためのメンタルケア」「指導困難な事例への「処方箋」の作成」、於：京都文教大学</p> <p>平成23年 8月 平成23年度教員免許状更新講習「教師と子どものためのメンタルケア」「指導困難な事例への「処方箋」の作成」、於：京都文教大学</p> <p>平成25年12月 平成25年度秋期教員免許状更新講習講師、「指導困難な事例への「処方箋」の作成」、於：京都文教大学</p>
	<p>(自治体や企業における研修等の講師)</p> <p>平成21年 4月 平成21年度第13回中央労働災害防止協会主催 心理専門相談研修講師(メンタルヘルスケア技法担当)「平22.2まで」</p> <p>平成24年 3月 京都府社会福祉協議会研修会(身体障害者更生援護施設等職員対象)「ストレスの発生メカニズムとは」「いかにして自らの身体をストレスから守るか」、於：パレスサイドホテル</p> <p>平成25年 9月 中央労働災害防止協会心理相談員専門研修、「リラクゼーション技法」「交流分析」、於：大阪</p> <p>平成25年10月 日本自律訓練学会基礎講習会講師、於：日本大学</p> <p>(その他)</p> <p>平成18年 4月 大阪女学院大学非常勤講師(「社会調査法」)「現在に至る」</p> <p>平成18年 8月 京都光華女子大学大学院非常勤講師(「認知行動療法特論」)「現在に至る」</p> <p>平成18年10月 日本自律訓練学会評議員 教育研修委員「現在に至る」</p> <p>平成22年 4月 大阪大学非常勤講師(心理学実習「自律訓練法」)「平25.3まで」</p>